

2016年3月15日
中央大学
国際センター

2015年度タイ短期研修プログラム報告書

1. 実施期間

①事前研修

第1回 2015年11月5日(木) <後楽園キャンパス>

2015年11月6日(金) <多摩キャンパス>

第2回 2016年1月16日(土) <JICA市ヶ谷ビル>

②タイ現地研修

2016年2月11日(木)~20日(土) (10日間)

2. 参加学生数

13名(法学部6名、経済学部4名、理工学部1名、文学部1名、総合政策学部1名)

3. 引率者

小川正純 国際センター国際プログラムコーディネーター

河本梨絵 国際センター国際プログラムコーディネーター

4. 目的

- 本学の協定校であるタマサート大学との交流を行い、本学学生の異文化理解を促進する。
- 日本の国際協力や NGO 等による社会的弱者への支援活動などについて理解を深め、ボランティア活動を体験する。

5. 研修の概要

①事前研修

第1回 2015年11月5日(木) <後楽園キャンパス>

2015年11月6日(金) <多摩キャンパス>

- ・現地研修の概要及び目的の説明、訪問先の紹介等を行った。
- ・タイ事情についてそれぞれ課題を全員に割り振り、第2回事前研修までに準備の上、発表することとした。

第2回 2016年1月16日(土) <JICA市ヶ谷ビル>

・地球体験学習

「平等」をテーマに、セネガルの事例を用いて、開発途上国の人々がどのような暮らしをしているか、どのような考えを持っているかなどについてグループに分かれてディスカッションを行った。

・JICA 地球ひろば 体験ゾーン見学

「人間の安全保障」をテーマにした世界の課題や国際協力を紹介した体験型展示を見学した。

・課題発表

タイの歴史、政治、経済、日タイ関係、教育、文化等の課題について全員が発表を行った。

・タイ人留学生によるタイの紹介

タマサート大学のタイ人留学生2名により、タイの最新事情について紹介を行った。

・タイ語(会話、文字)

簡単なタイ語会話とタイ文字の書き方について学修を行い、全員が自分の名前をタイ語で書くことができるようにした。

・プレゼンテーションの準備

3グループに分かれ、日本の紹介、中央大学の紹介、「同性婚」についてのプレゼンテーションを行うこととし、その準備を行った。

②タイ現地研修

■研修日程

日付	都市	活動内容
1	2/11	[東京~~バンコク~~チェンマイ]
2	2/12	ランパーン ①タマサート大学ランパーンキャンパス (学生交流、地域交流)
3	2/13	ランパーン ランパーン市内視察 ーワット・プラタート・ランパーン・ルアン(寺院) ータイ象保護センター [チェンマイ~~バンコク==カンチャナブリー]
4	2/14	カンチャナブリー ②生き直しの学校 (活動視察、子どもたちとの交流)
5	2/15	カンチャナブリー カンチャナブリー市内視察 ークワイ川鉄橋 [カンチャナブリー==バンコク] バンコク ③JICAタイ事務所

			(日本のタイに対する国際協力の現状についての講義)
6	2/16	バンコク	④ドゥアン・プラティープ財団、クロントイ・スラム (スラム視察、支援活動視察、地域の子供たちとの交流) ⑤アジア太平洋障害者センター (APCD) (障害者のエンパワーメントについての講義、ワークショップ)
7	2/17	バンコク	⑥タンヤポーン女児保護センター (青年海外協力隊の活動現場視察、入所者との交流) ⑦タイ国家警察大佐 戸島国雄氏による講義 (人間の「癖 (へき)」と犯罪、日・タイでの経験について)
8	2/18	バンコク郊外	ダムヌンサドゥアク水上マーケット 午後 自由行動
9	2/19	カオヤイ	[バンコク==カオヤイ] ⑧ハーモニーライフ オーガニックファーム (有機農業について講義、肥料作り体験)
10	2/20		[バンコク~~東京]

[] : 移動 (~~ : 空路、== : 陸路)

■現地研修の概要

➤ タマサート大学ランパーン・キャンパス

タマサート大学ランパーン・キャンパスの学生 13 名と交流を行った。まず、ランパーン市内の小学校の生徒によるタイ舞踊が披露された。それに続き、タマサート大学法学部講師 Ms. Wassamon Kun-amornpong によるタイ事情の講義が行われた。その後、本学学生は 3 つのグループに分かれ、英語で日本の紹介、本学の紹介「同性婚」についてプレゼンテーションを行った。その後、これに基づいて双方の学生により活発に意見が交わされた。

また、ランパーン市近郊の地域住民と一緒にランパーンの民芸品やお菓子づくりなどを体験して交流を深めた。

➤ JICA タイ事務所

国際協力全般及び日本のタイに対する国際協力の現状について講義を受けるとともに、長年 JICA の専門家やシニア海外ボランティアとしてタイ警察に鑑識分野の協力を行ってきた戸島国雄氏に話を聞いた。

中進国となったタイが抱える諸問題と、JICA のタイに対する協力内容について理解を深め、日本が国際協力を行う目的や意義、今後のタイへの協力の方向性について考えた。

➤ タンヤポーン女児保護センター

同センターには、親の貧困や虐待等で家族とともに暮らせない状況にある6歳から18歳までの女兒が在籍しており、青年海外協力隊員の野村麻美さん（職種：手工芸）が、職業訓練としてビーズ細工、パティック、造花づくりなどを指導している。

学生は、ビーズ細工づくりや、絵画などの作業を入所者と一緒に行うとともに、日本、タイ双方の歌や踊りで交流を深めた。

➤ アジア太平洋障害者センター(APCD)

同センターは、アジア太平洋地域の国々において障害者のエンパワーメントとバリアフリー社会を促進するために日本の協力により設立された。近年実施されている自閉症の障害者を対象とした JICA の第三国研修の実施状況など、APCD の活動状況について紹介があった。

研修は障害当事者のスタッフにより行われ、障害を持ちながらファシリテーターを務めるスタッフの姿が印象的であった。

グループワークでは、研修参加者自身が口をスカーフでふさぎ、言葉を話すことができない状況で共同作業を行い、障害者が社会参加することのむずかしさを実感することができた。

➤ ドゥアン・プラティープ財団及びクロントイ・スラム

ドゥアン・プラティープ財団では、同財団が取り組んでいるタイ最大のスラム街であるクロントイ・スラムの貧困層や子ども達の教育などへの支援の状況について学んだ。また、ドゥアン・プラティープ財団が運営する幼稚園では、子ども達と一緒に歌や踊りで交流を行った。

学生は、クロントイ・スラムを視察することにより、大都市バンコクに近代的な高層ビルが建ち並ぶ一方、すぐそのそばに貧困層が住むスラム街が存在する現実に驚きを見せた。日本では決して見ることはできない貧困層の生活を垣間見て、一部の学生は、スラムの鼻につく腐敗臭が日本に帰るまで頭から離れなかったようである。

➤ ドゥアン・プラティープ財団「生き直しの学校」カンチャナブリー校

タイ西部のカンチャナブリー県にある「生き直しの学校」では、親が麻薬取引に関わって刑務所に入ったために面倒を見ることができなくなったり、親に虐待されたりして心に傷を負った子ども達と交流を行った。

ここにいる子ども達のケースは、タイ社会の最も歪んだ部分を反映しており、信じられないほど悲惨な問題を抱えている。それにもかかわらず、子ども達は明るい笑顔で学生達を迎えてくれ、かえって学生達の方が子ども達から元気や生きることに對する力強さを与えてもらうことになった。

➤ ハーモニーライフ・オーガニックファーム

世界自然遺産であり、国立公園でもあるカオヤイ山脈の中腹にあるハーモニーライフ農園は、農薬と化学肥料を使用しないオーガニック農法で農作物を栽培している。学生は、有用微生物(EM)を使ったぼかし肥料づくりや農作物の収穫などを体験した。

6. 所感

本研修に参加した学生は、タマサート大学の学生との交流により、タイの学生の勤勉さや英語のコミュニケーション能力の高さに大いに刺激され、語学力やプレゼンテーション能力の向上の必要性を感じたようである。また、開発途上国における貧困や社会的弱者の実態を実際に自分の目で確かめ、日本でテレビや写真で見るとは違うことを実感している。開発途上国の社会問題の現状を肌や臭いで感じ、一人一人が自分に何ができるか、将来自分がどのような道に進み、そのために大学で何を勉強するべきか考える良い機会となったと考える。

以上